

若者の夢、子育てを応援する 魅力あるまちに



公明党 なおの 克

●まちの魅力発信について

問) わがまちの魅力の映像や動画作品を広く公募しては如何か? 思いもよらない国分寺の魅力の発見にも繋がり、対外的な情報発信にもなる。政策部長) 市民のお力を借りながら、動画コンテンツや収集のような方法について検討したい。

●若者の夢へのチャレンジ支援について

問) 海外での語学研修やインターンシップ、ボランティアなど学生が自ら考えて企画した活動に対し、経費の一部を助成する若者の夢へのチャレンジを応援する事業が始まっている。当市においても、検討・推進できないか?

市長) 若者支援や育成という大きな立場からいろいろ検討してみたい。

●福祉・子育て支援・健康施策について

問) 「子ども・子育て支援新制度」、利用者支援事業の実施によりどのような対応を図るか?

子ども家庭部長) 子ども家庭支援センターの総合窓口の案内を本庁舎でもやっていきたい。

問) 「子育て支援ナビ」や健診や予防接種の「お知らせ配信機能」など、気軽に情報を入手できるアプリ導入は大変有効であるが如何か?

子ども家庭部長) アプリは、かなり有効な手段だろうと考える。検討を進めていきたい。

問) 厚労省の統計では、日本人の死因3位は脳血管疾患だ。うち脳梗塞死亡者は年間7万人超だ。脳ドック受診補助の実施を強く求めたい。福祉保健部長) 医師会と今後話を通じて、実現に向けて、是非検討して参りたい。

問) コンビニで健康診断など工夫し、企業とのタイアップで若年層の健診受診率の向上、市民の健康増進を図る取り組みができないか?

福祉保健部長) 事例を参考にして民間企業との連携など研究させていただきたい。

●図書館について

問) 市内図書館では可能だが、他市と相互利用している図書館ではリクエストができない。市民の利便性向上に向けて、運用面で一定制限付きでも検討はできないか?

社会教育担当部長) 検討する余地は十分にある。

安全・安心のまちづくり



自民党国分寺市議団 尾作 義明

●装飾街路灯について (尾) 市内にある商店会の装飾街路灯はLED化、老朽化による修繕、また撤去の必要性など装飾街路灯補助事業の開始時期とは環境が変化して現状に即していない。1灯の補助上限額、補助対象の見直しなどの必要がある。(部長) 本補助の要綱は昭和55年から大きな改正等は無く、そごが有る。対応への財政の措置も必要。研究、検討していく。

●国分寺駅周辺整備に伴う防災への取り組みについて (尾) 大震災など大きな災害が起きた場合、完成した交通広場で大きな混乱が予想される。市として対応が必要であるが対応は?

(部長) 地域防災計画では市内に約2万4千人の帰宅困難者を想定して計画をつくっているが

現状の施設では到底足りない。防災倉庫等様々に整理していかなければならない。また、鉄道事業者、大規模集客施設、地域と関係機関と平時から情報を共有し、体制を構築したい。

(尾) ソフト面での人との繋がりも大切だが、備蓄倉庫や避難場所の設置など、今だからこそ計画的に整備を進める必要がある。(部長) 特建者から防災への提案もある。また地下駐車場、交通広場のトイレを設置し防災機能を持たせるなど設置できるよう進めていきたい。

●自転車駐車場の計画的整備について

(尾) 今後、3千台収容予定の国分寺駅北口地下駐車場が設置されるが、周辺の駐車場は老朽化が始まっている。計画的な整備が必要。(部長) 策定中の公共施設等総合管理計画において個別施設計画を定めていくこととして対応を図っていく。また、改修等は計画的に進めていく。

(尾) 必要台数の検討、原付自転車、自動2輪車、大型化した自転車への対応も必要となってくる。(部長) 検討して参りたい。

●国分寺駅北口の整備について (尾) 交通広場、国3・4・12号線の整備など大きくまちが変わる。土地の価値に見合った用途の変更など、今後の見通しについて伺う。(部長) この地域は都市生活・文化交流の拠点と位置付けている。整備の効果とまちの魅力や価値を一層高めていく。

定量的な事業評価と 政策的判断を求める



自民党国分寺市議団 尾澤 しゅう

【ぶんバスの現状と課題について】

尾澤: ぶんバス(事業規模は平成27年度予算で約4,620万円)は市内に5ルート存在し、その内の東元町ルートを除く4ルートが赤字運行である。そして新たに「第6のルート」運行開始のための検討も行われている。

ぶんバスの課題は「4ルートの赤字解消」と「事業の定量的な効果検証の実施」である。それらの課題が放置されているのは利用状況の詳細データを採っていないことに起因している。年間を通して各ルートにおいて「どれだけの人」が「いつ」「どこに」移動しているのか把握することが課題解決の第一歩である。

近い将来、都市計画道路国3・2・8号線の開通に伴うルート変更やバス停の位置の見直しも必要になってくる。感覚ではなく定量的な数字を基にした政策的判断を下していくことが重要で、そのために乗降客数をカウントするセンサーを導入すべきではないか?

答弁: 全車両8台に設置すると約200万円かかることもあり、すぐに導入するという認識には至っていないが提案を踏まえて検討していく。

【公民館の現状と課題について】

尾澤: 公民館も利用者状況をしっかりと把握できていない。どのような市民(性別、年齢、地域性、団体特性、利用目的等々)が使用しているのか集計する仕組みが必要。PDCAサイクルが回らないので事業の方向性も打ち出せない。しっかりと利用者実態を把握できるシステムを構築していくべき。

答弁: 把握できるように工夫をしていきます。

【職員の仕事と報酬について】

尾澤: 正規職員数に占める技能労務職員数(82人で13%、26市中25位)が多すぎる。技能労務職員は中学校用務員(年収720万円)を始めとする学校給食調理員、清掃職員は仕事に対して

給与が高すぎる。正規職員でなくてもできる仕事は全てアウトソーシングするべき。

答弁: 業務プロセス分析事業を実施し、仕事の担い手の最適化を検討して参ります。

ひとり親家庭支援、 認知症対策、ぶんバス等



公明党 木島 たかし

【行政改革へ不断の努力を】

問) 接遇は行政サービスの根幹を成す重要業務である。改善傾向と評価するが、さらなる意識改革が必要であり市民に寄り添う丁寧な対応を

答) 改善が進んでいるがさらに努力したい。

【ひとり親家庭への支援について】

問) とりわけ母子家庭への支援の充実が必要だ。ワンストップでの相談体制の確立を。

答) 利用者には不便がないよう工夫し対応する。

問) 厚労省通知の「ひとり親家庭生活向上事業」等を市として積極的に取り組むべき。

答) 指摘のとおりである。検討したい。

【代読・代筆(読み書き)の支援について】

問) 視覚障がい者及び視力が低下した高齢者への支援の必要性が高まっている。対応を。

答) 可能なところから取り組んでいきたい。

【認知症施策は利用者やその家族の視点で】

問) 疾患医療センターとともに、今後進められる初期集中支援チームや推進員等の施策の有機的な連携が重要だ。利用者本位の体制構築を。

答) 初期集中支援チームは29年度、推進員も設置を目指す。連携させ支援体制をつくる。

問) 認知症の方が地域で安心して暮らせるために、医療と福祉の連携を分かるように示す当市における「認知症ケアパス」の確立を。

答) 重要な指摘だ。取り組んでいく。

【ぶんバス万葉ルート(史跡周辺)について】

問) 来年度に試験運行の見通しは?

答) 実現に向け調整中。早い段階で事業者の募集を行い、来年末の運行を目指したい。

問) 西国分寺駅東側と国分寺駅南口に行くために、府中街道と多喜窪通りを基本とするべき。

答) 指摘を踏まえ検討していく。

【いずみホールのバリアフリー化を】

問) 市にとって替えのない文化施設であり、災害時には帰宅困難者の受入れ場所に。その重要性を踏まえ、トイレの洋式化、手すりやおむつ替え台の設置等、施設の改善を進め、将来の大規模改修時にEV設置等のバリアフリー化を。

答) 一部対応中であるが、今後計画を立てたい。

日曜議会を開催します

身近な、開かれた議会を目指します

平日に議会の傍聴に来られない市民の方が議会の傍聴していただけるよう日曜日に本会議を開催します。

多くの市民の皆様のご来場をお待ちしております。

日時: 2月21日(日)午前9時30分~

場所: 市役所第一庁舎3階 議場

内容: 平成28年度施政方針に対する代表質問

なお、市長の施政方針は、2月19日(金)午後9時30分から予定しています。